2. 九州各県における潜水夫アンケート調査

林　　晧* 川嶌真人* 林　　克二*
市場裕司* 大西　　弘**

Medical Survey of Divers in Kyushu District through a Questionnaire

K. Hayashi*, M. Kawashima*, K. Hayashi*, H. Ichiba* and H. Ohnishi**

*Kyushu Rosai Hospital and **Divers Co-operative Association in Ohita Prefecture

Informations were obtained through a questionnaire to 391 divers in Kyushu District.

In regard to the diving method used by the subjects, 207 used a helmet, 118 employed SCUBA and so on.

As for the purpose of the diving, 204 were fishermen, 63 were engaged in underwater construction and 7 were salvage company worker.

As for the past history, 33.5% experienced decompression sickness.

緒　　言

潜水夫は法令により定期的に特別教育の講習会を受講するよう定められている。我々は昭和51年から54年にかけて九州各県でこのような講習会を行い，その受講者に対して潜水病（減圧症）あるいは潜水業務に関してアンケート調査を行ったのでその結果を報告する。

対　　象

対象者は**表1**の如く合計515名であり，その内訳は大分県119名，北九州市戸畑区44名，福岡県柳川市41名，熊本県65名，宮崎県29名，長崎県99名，佐賀県藤津郡大浦地区118名である。この内大浦地区は有明海岸に位置し，おそらく日本最大の潜水夫村と思われる地区である。

表1　潜水夫アンケート調査
（昭和51～54年）

大　分　(1)	76
大　分　(2)	43
大　　浦	118
熊　　本	65
戸　　畑	44
宮　　崎	29
柳　川　(1)	16
柳　川　(2)	25
長　　崎	99
計	515

結　　果

まず潜水方法を調べてみると，ヘルメット潜水が313名と最も多く，次いでアクアラング潜水118名，簡易マスク潜水17名，二種類以上の潜水を行うもの37名などとなっている。

潜水目的としては**表2**の如く，潜水を職業としているものが合計449名，趣味としているものが19名で，これは講習会の性格上職業潜水夫が多数受講したためと思われる。職業潜水夫の内訳けは，漁業282名，水中土木75名，サルベージ7名，二種類以上の職業に従事しているもの78名などとなっている。

潜水経験年数としては**表3**の如く大浦地区以外のところでは10年未満のものが圧倒的に多く，これらの地区では比較的新しい時期に潜水が開始さ

*九州労災病院
**大分県潜水士協同組合

れたことがわかる。これに対し大浦地区では比較的潜水経験が長いものが見られ，このことはこの地区が数世代にわたるいわゆる世襲的な潜水夫の村であることをうかがわせる。

潜水病の既往歴をみると**表4**の如く全体的にみれば515名中194名がなんらかの潜水病に既往があったが，これを大浦地区とそれ以外の地区とに分けてみると大浦地区では118名中76名（64.4%）のものに既往があり，その他の地区では397名中118名（29.7%）と既往のある者が大浦地区に比べると少なかった。このことは大浦地区は他の地区に比較して潜水病罹患率が高いことを意味している。

表2　潜水の目的

職業	漁業	282
	水中土木	75
	サルベージ	7
	組み合せ	78
	その他	7
	計	449
趣味		19
不明		47
計		515

潜水病の知識に関する調査では潜水病（減圧症）で脊髄障害が起こることを知っていたものが515名中332名，骨の障害が起こることを知っていたものが311名で，約6割の受講者は潜水病について一応の知識は持っていたことがわかる。しかし，我々の潜水病の講義を受けた後の感想を尋ねてみると潜水病の症状が予想以上に激しかったと答えたものが515名中365名（71%）と高く，このことはやはり潜水病に対する知識が不充分であること，あるいは潜水病を自分自身の問題としてあまり深く考えていなかったことを示す所見と思われる。

次に潜水夫は6カ月に1回の健康診断を受けるよう定められているが，このことを知っていたものは515名中331名（64%）でかなりの潜水夫が定期的健康診断の受診の義務を知っていた。しかし実際に健康診断を受けていたか否かを尋ねると，

表4　潜水病既往歴

（　）：%

既往歴＼地区	大浦	その他	計
ある	76（64.4）	118（29.7）	194（37.7）
ない	40（33.9）	246（62.0）	286（55.5）
不明	2（1.7）	33（8.3）	35（6.8）
計	118(100.0)	397(100.0)	515(100.0)

表3　潜水経験年数

地域＼年数	0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35以上	不明	計
大分 (1)	32	23	15	1	1				4	76
大分 (2)	16	14	4	1					8	43
大浦	35	22	22	6	15	4	4	1	9	118
熊本	31	9	12	1	6	1			5	65
戸畑	12	14	4	3					11	44
宮崎	3	7	3	9	2	1		1	3	29
柳川 (1)	6	2		2					6	16
柳川 (2)	7	4	5	1			1		7	25
長崎	27	9	16	15	29		1		2	99
計	169	104	78	33	60	7	7	2	55	515

表5　船上減圧タンクの使用

（　）：大浦地区

使用している	118　(52)
使用していない	339　(61)
不　　明	58　(5)
計	515 (118)

受けていないものが308名（60%）と半数以上を占めており，知識と実際の行動とにかなりのギャップが認められる。知っていて健康診断を受けていない者にその理由を尋ねてみると，お金がかかる，面倒くさい，どこの病院に行ってよいかわからないなどの返答が見られる。

次に船上減圧タンクを日常の潜水に使用しているか否かを調べてみると**表5**のように515名中118名が使用していると答えている。しかしその内の約半数は大浦地区の者によって占められており，この地区の特殊性を示している。

結　　語

以上九州各県における潜水夫515名に対して潜水病あるいは潜水業務に関するアンケート調査を行いその結果を報告した。

特に(1)潜水病の既往歴を有するものが多いこと，(2)潜水病に対する一応の知識は持っているが，実際の重症度の発生頻度に関しては知識が浅く切実な問題としてとらえていないこと，(3)定期健康診断の受診の義務は知っているが，実際に受診しているものは少ないことなどの結果が得られ，今後共潜水夫の健康管理の意識を高めるべく啓蒙活動を続けなければならないと考えた。